

## 平成30年度 第1回「小国郷医療福祉あんしんネットワーク」全体会

日 時：平成30年4月18日（水）19：00～20：00

場 所：南小国自然休養村管理センター 2階 大会議室

記録者：佐藤 亮太（ファーコス薬局 ゆう）

参加者：全50名（新規参加者17名、継続参加者33名）

（敬称略・順不同）

穴井孝幸・河津頼子・下城孝浩（南小国町役場）、眞子由美・古木雄一（阿蘇都市医師会）、堀川あつみ・秋吉朱美（悠清苑）、麻生康行（悠愛）、岡本茂洋（小国調剤薬局）、力丸るみ・河津一子（柿の木の家）、高野和代・松岡早百合・久野望（縁がわ小国）、下城三枝（みどりの里）、三笛美子・穴井悠斗（南小国地域包括支援センター）、穴井千恵美（グループホームなごみ）、甲斐田英俊（甲斐田歯科医院）、小田祐介（みなみだ荘）、穴井沙織・小田栄美・大塚由加里・山岡京子・佐藤明日香・富永源一郎・片岡恵一郎・工藤美智也・桑原暢宏・西ヶ野圭佑・大崎琢磨・安藤幸代・佐藤直美（小国公立病院）、松原恒子（小国公立病院おぐに訪問看護ステーション）、後藤藍・矢羽田直美（小国町地域包括支援センター）、辻龍也（蓮田医院）、加祥一恵・日野紀子・河野理美・生田敬二（小国町役場）、佐藤旨人・有働多津美・佐藤ひとみ（小国町社会福祉協議会）、周寶光春（デイサービスリスト）、中島安美（阿蘇保健所）、高村智幸（南小国社会福祉協議会）、宮本祐児（悠和の里）、佐藤亮太・水田龍佑（ファーコス薬局ゆう）

内容：

\*今回が初回の参加者になる方の自己紹介。

（敬称略・順不同）

下城孝浩（南小国町役場）、久野望（縁がわ小国）、工藤美智也・桑原暢宏・西ヶ野圭佑・大崎琢磨・安藤幸代・佐藤直美（小国公立病院）、矢羽田直美（小国町地域包括支援センター）、日野紀子・河野理美・生田敬二（小国町役場）、周寶光春（デイサービスリスト）、中島安美（阿蘇保健所）、高村智幸（南小国社会福祉協議会）、宮本祐児（悠和の里）、水田龍佑（ファーコス薬局ゆう）

<1>総会

①小国郷医療福祉あんしんネットワーク代表あいさつ。

小国町社会福祉協議会、佐藤旨人氏より。

②H29年度の活動報告。佐藤局長から。

- ・世話人会は毎月実施された。会の運営などについてが主。
- ・全体会は8回実施。事例検討会やグループワークが主。
- ・認知症カフェ、ひとよこいイベントは2回実施。2周年記念イベント、音楽療法とアロマ。
- ・外部のイベントとしては、サポートセンター悠愛が主催のふくし夏祭り。ここで活動のアピールを行った。
- ・住民フォーラムは2回実施。

1回目。11月11日。じぶんの死について考えるvol. 2～小国郷らしいミトリのカタチ～。

2回目。平成30年2月24日。伸ばせ！健康寿命～小国郷で元気に年を重ねるコツ～。住民363名参加。熊大の都竹先生、おぐに整形梅田先生。

これら以外にも各チームごとで様々な取り組みが行われた。

出張出前講座や患者情報共有シートの取り組みなど。

③H29年度会計報告。

- ・全体会計報告、佐藤局長より。
- ・ひとよこい会計報告、加祥氏より。
- ・監査報告、阿蘇郡市医師会古木氏より。

4月12日、小国町社会福祉協議会で実施。参加者7名。

④H30年度活動計画案。各チームリーダーより。

- ・患者情報共有チーム。小国公立病院ケアマネージャー、穴井氏より。

小国郷ケア情報シート（患者情報共有シート）を現在2年、使用中。現在は紙媒体で使用中だが、今年度はこれをICT化していきたい。

7月には患者情報共有シートの見直しを行う。8月にメディカルケアステーション（後述）を使用するためのマニュアルを作成。

9月頃、あんしんネットワーク内でメディカルケアステーションの運用を目指す。

- ・認知症カフェチーム。小国町包括支援センター、矢羽田氏より。

月2回、第2第4木曜日午後に開催している認知症カフェ「ひとよこい」を継続開催。  
7月に3周年記念イベント、10月にイベント、12月にクリスマスイベントを実施予定。

・美鳥チーム。小国公立病院看護師、佐藤氏。

昨年度イベントで作成したエンディングノートの活用推進を計画。

ひとよこい、事例検討会などを通じてエンディングノート記入の仕方を広める。

ネットワーク内で小国郷の看取りのシステムを提案していく。

・事例検討チーム。小国調剤薬局、岡本氏より。

事例検討会と事例報告を1回ずつ行う予定。

3月に予定している事例報告の内容はほぼ固まっている。

8・9・10月あるいは11月に予定している事例検討会は、どういった内容で行うかをアンケートで意見を募る。

5月6月の全体会で、あるいはあんしんネットワークのメーリングリストを通じてアンケートを実施予定。

・出前講座チーム。甲斐田歯科医院、甲斐田先生より。

毎月2～3回を予定。ネットワークのメーリングリストで両町各地区のサロン情報を配信。

20分程度の講演を、様々な専門職の方々にお願いしたい。

・広報チーム。小国公立病院、片岡先生より。

広報チームはあんしんネットワークの活動を小国郷内外に伝えることを目的としている。

ホームページとフェイスブックは既にあり、適宜情報発信を行っている。

今年の予定。まず「ほっとオレンジ第2巻」の発行。遅くとも5月中に発行する予定。

イベントなど実施した際に、マスコミ・新聞に話をしている。

エンディングノートの件では、年末に熊日の取材を受け、ついこの間は読売新聞からも取材を受けた。

- ・総務チーム。佐藤局長より。

財源を集めてくることを仕事としている。両町からの補助金で運営は出来ている。

新たに事業で資金が必要になったときは、様々な民間の補助金を探して申請をしている。

昨年度は看取りの講演会の費用として30万の補助を受けた。今年度も必要に応じて財源の確保を進める。

- ・意見交換。

小国郷医療福祉あんしんネットワークが出来たことで、どのような利が生まれたかを評価する必要がある。

ボランティアベースで行ってきたネットワークの活動で、各事業所にどのような利益が生まれたか、

嫌らしい言い方をすれば加算が取れたかについて。

医療と福祉の連携が様々な所で叫ばれ、報酬が付くようになってきている。

そのことについて、6月の全体会で各事業所間の情報共有を行いたい。

各事業所においては、どのような条件を満たせばどのような加算が取れるかについて情報を整理しておいて欲しい。

- ・H30年度予算案。佐藤局長より。

### ⑤あんしんネットワーク規約の改正案について。佐藤局長より。

- ・事務局の人数を、「5名」から「5名」以上に変更。事務局員の人数を、「4名」から「業務量に応じた必要人数」に変更。

事務局員は議事録担当であり、業務量が多く負担が多いため、必要人数に合わせ増員することに。

- ・幹事の項に、「チームリーダーを含む」の文言を追加。

元々はチームに分かれていなかったが、現在では複数のチームに分かれて作業している。それぞれのチームリーダーには既に世話人会に参加してもらっており、改めてチームリーダーは世話人として規定する。

- ・附則の項に28年までという文言があったが、この文言を削除。

以上3点について、世話人会より指摘があり変更を要望する。

ここで片岡先生より、チームやチームリーダーの定義について指摘。

規約の改正については世話人会に持ち帰り再度話し合い、また次回以降発案するということに。

#### ⑥世話人の交代について。

小国町役場、木下課長→生田課長。南小国町役場、坂本課長→下城課長。

阿蘇保健所、保健師の川口氏→田代氏・中島氏。

#### <2>メディカルケアステーションについて

片岡先生より説明。

小国郷ケア情報シートを電子化する方向で考えている。

このケア情報シートは、高齢者が病院や施設に入るとき、

作成されたデータの量や質に差ができるのを抑え、情報共有をしやすくするためのもの。

小国町・南小国町、両町の行政の公認を受けて作成したものであり、この点が画期的。

1年半での実績は376名、のべ751枚のシートが利用されている。両町の65歳以上の人の約11人に1人が利用している計算になる。

熊本県全体で計画されているネットワークの登録者割合が約450人に1人のため、比較するとかなりの登録数と思われる。

どのようなシステムで電子化するか→「メディカルケアステーション」を採用する。

このシステムは既に全国の医療機関で利用されている実績がある。

登録費・維持費は無料。セキュリティは厚労省・経産省・総務省、三省のガイドラインに準拠している。

「完全非公開型医療介護専用SNS」いつでも・どこでも・安全にコミュニケーションが取れる、というもの。

必要なものは、ネットに繋がる「スマホ」・「タブレット」・「パソコン」。

特定の事例の情報にアクセス出来る人を限定することが出来る。

招待制であり、招待されていない人は情報にアクセスすることは出来ない

情報が端末には保存されないということが重要である。

載せられる情報→画像（紙の資料の写真、CT画像）・動画・音声・EXCELデータ・WORDデータ・PDFデータなど。

さしあたり、ケア情報シートを画像データにし共有することから運用を始める。

その先にあるものとして、在宅で看取りを行う際に画像・テキストなどで様々な必要な情報を共有できると考えている。

厚労省のガイドラインが平成29年5月に出ているが、現時点ではSNSについての記載はない。Q&Aにいくつか記載があるのみ。

情報共有の方法は情報の緊急度によって適したやり方が変わってくるため、電話やFAXなどと使い分けることも必要。

原則として、個人の端末で利用すべきではない。

早くこのシステムに移りたいところはあるが、患者情報共有チーム内でも不安を感じるという意見が多い。

そのため、まずはこのシステムを利用する我々の不安感を払拭するところから始める必要がある。

最初は疑似患者のテストから始めたい。

そこで、個人所有でない情報共有用の端末を用意していただきたい。

安いものであれば1万円以下で購入することも出来るし、各事業所で使われずにあった物を再利用する形でもいい。

### <3>その他

・広報チームより。ちょっとでもいいのでITに知識・興味のある方は、是非広報チームに参加をお願いしたい。

・広報チームに限らず、色々なチームがある。

参加は自由なので、チームに入って活動に積極的に参加していただけたらと考えている。

このあんしんネットワーク自体も、資格の有無、老若男女、正規職員やパートなど関係なく参加出来る。各事業所で、どなたでも参加いただけることを周知していただきたい。